

すみだ郷土文化資料館の今後のあり方等について

1 すみだ郷土文化資料館の目的

平成10年度、「すみだ郷土文化資料館」(以下「資料館」という。)は、区民の郷土文化に対する理解を深め、郷土意識の高揚を図ること等を目的に開設した。以来、区の特色を生かしたテーマ展示のほか、小・中学校の社会科学習の支援、講座・講演会などの事業を展開し、本区の歴史・文化の継承と保存を進めている。

2 本区と他区の資料館の現状

本区は、隅田川流域という土地柄から名所が多く、花見や花火のように江戸を代表する文化が生まれ、浮世絵などの収蔵資料が豊富なため、これらを活用して、季節ごとにテーマ展示を行うなど、来館者をリピーターに繋げている。

先に視察した4区(新宿区、文京区、足立区、葛飾区)の資料館は、多くが本区よりも大規模施設であり、映像機器による解説や復元住居等の常設展示が、床面積の7割以上を占めている。

3 資料館の課題

開館から23年が経過し、防犯機器の劣化・破損や、空調設備の度重なる不調など、設備面の早急な更新を必要とするほか、運営面では、施設及び資料への関心を高め、更なる来館者数の増加を目指す必要がある。

4 今後の主な取組

本区では、初来館者とリピーターがほぼ二分するため、新たな来館者の開拓のために、観光客等を含む多くの人々に、すみだの歴史・文化の魅力を発信していくほか、より魅力的な企画展を実施するなど、収蔵資料等に接する機会を充実させる。

具体的には、次に掲げる5つの取組を重点に推進する。

(1) 図書館との連携(拡充)

ア 資料館の所蔵図書を図書館システムに組み入れ、その一部を貸出しに供する。

イ 資料館が、図書館システムで予約した図書の貸出窓口業務を担うことを検討する。

ウ 収蔵資料(浮世絵、古文書、写真、地図等)のデジタル化・データベース化を進める。

(2) 千葉大学との連携

ア 千葉大学と連携実施する「文化財のユニバーサルデザイン等に関する研究」の成果物を資料館で展示する。

イ 千葉大学の知的資源を活用し、資料館ロゴマークや誘客サイン表示の作成等を行う。

(3) 小・中学校との連携(拡充)

ア タブレット端末を活用した社会科見学等を支援し、子どもたちの郷土に対する興味・関心を効果的に喚起する。

イ オンライン会議システムを活用し、「昔の暮らし体験活動」を支える資料館ボランティアとの交流機会を増やす。

(4) 観光部署との連携

資料館の周囲では、東京スカイツリー、すみだリバーウォーク、東京ミズマチの開設、隅田公園の大改修等、環境が大きく変化していることから、観光部署との連携により、来館者の増加に繋げる。

(5) 設備等の充実

入口や外壁の一部改装、映像機器による情報発信、ICTによる鑑賞支援を検討する。

5 大規模修繕の実施

来年度に、「公共施設(建物)長期修繕計画」に基づく大規模修繕を予定している。